

(様式5)

## 動物実験の実施状況 (令和元年度)

1. 動物実験の実施件数			実施件数合計			41 件		
大中哺乳類			鳥類			その他		
動物種	件数	頭羽数	動物種	件数	頭羽数	動物種	件数	頭羽数
ウシ	28	6620	ニワトリ	4	1729			
ブタ	7	169						
ヤギ	1	6						
ヒツジ								
ウマ	1	135						

2. 動物実験の主な内容

[ウシ]

- 「乳用牛の繁殖性に影響を及ぼす遺伝子解析とその実用化」及び「肉用牛の改良形質に関する遺伝子解析とその実用化」  
⇒DNA収集のため採血し、乳用牛は繁殖性について遺伝子解析情報との関連性を調査し、肉用牛は理化学特性データ等に関する遺伝子多型を調査した。(本所(改良技術課))
- 「次世代型ロボットによる視覚・体内から捉える飼養管理高度化システムの開発～搾乳ロボット及びセンシング技術の活用による個体情報高度活用システムの開発に向けて～」  
⇒搾乳牛について、データ蓄積のための乳汁採取及び採血しBCS等を測定した。(新冠牧場)
- 「酪農生産基盤強化に向けた個別搾乳ロボットと飼養管理データの高度活用による乳用子牛等の精密哺乳・哺乳システムの開発・普及」  
⇒供試する子牛及び母牛について、飼養管理データを収集するために採血及び体重測定並びに哺乳量を測定した。(岩手牧場)
- 「水田里山の畜産利用による中山間高収益営農モデルの開発」  
⇒黒毛和種子牛の健康状態の把握の対照データを採取するため、供試牛の体重測定、採血及び代謝プロファイルテストを行なった。(鳥取牧場)
- 「黒毛和種における短期肥育技術等の開発」  
⇒短期肥育技術の開発のため、肥育牛の体重体型測定、胸最長筋の画像撮影及び採血を行い、肥育後はと畜して枝肉は格付け及び胸最長筋の理化学分析を実施した。育成牛は、発育調査を行なった。(本所(管理課))
- 「牛慢性消耗性生疾病の早期発見および防除技術の開発」  
⇒DNA収集又は血清収集のため、供試牛から採糞又は採血した。(本所(生産衛生課))
- 「令和2年度家畜個体識別システム定着化事業に係る耳標のフィールド試験」  
⇒供試牛にサンプル耳標を装着し、脱落や破損を調査した。(十勝牧場、奥羽牧場、岩手牧場、本所(管理課))

[ヤギ]

- 「泌乳山羊の泌乳ステージ別エネルギーバランスのリスク評価」

⇒代謝異常による免疫機能や生産低下を防止する飼養管理方法を解明するため、乾乳後期、泌乳前期、泌乳後期で血糖値の測定、採血を行い血中の各ステージの栄養状態を明らかにした。（長野支場）

[ブタ]

○「生産現場で行えるガラス化豚胚の非外科移植技術の検討」

⇒子宮体部非外科移植器具、ガラス化胚の加温法を組み合わせた移植法の有効性検証するため、供試豚から採胚した胚のガラス化保存、子宮体部非外科移植器具、簡易加温法を用いた移植試験を実施した。（本所(管理課)）

○「国産豚肉差別化のための「おいしさ」の評判指標と育種改良技術及び飼養管理技術の開発」うち豚における肉質及び官能特性の遺伝子能力評判指標の開発

⇒肉質関連分子マーカーを探索するために採血し、体重測定した。と畜後は、センター内の肉質評判面に用いられた。（茨城牧場、宮崎牧場）

[ニワトリ]

○「鶏の改良形質に関する遺伝子解析とその実用化」

⇒DNA収集のために採血し、遺伝子型を解析する産肉性・産卵性能等を調査した。（本所(改良技術課)、岡崎牧場、兵庫牧場）

- 備考
- 1) この様式は、センターにおいて当該年度に実施した動物実験等の実施状況をまとめるものである。
  - 2) 「1. 動物実験の実施件数」の欄は、当該年度の動物実験等に供用した全動物種とその実験件数及び頭羽数を記載すること。
  - 3) 「2. 動物実験の主な内容」の欄は、当該年度に実施した主な動物実験について簡潔に記載すること。

## 令和元年度 動物実験に関する自己点検及び評価報告

動物実験委員会

### 1. 規程等

- ア 動物実験等法令及び基本指針に基づいた規程等が定められている。  
 イ 規程等は定められているが、改善すべき点がある。

① 改善を要する点
② 改善の方針及び時期等

### 2. 動物実験委員会

- ア 動物実験実施規程に基づいた動物実験委員会が設置されている。  
 イ 動物実験委員会は設置されているが、改善すべき点がある。

① 改善を要する点
② 改善の方針及び時期等

### 3. 施設等の維持管理

- ア 動物実験実施規程に基づき施設等は適切に維持管理されている。  
 イ 施設等の維持管理に問題がある。

① 問題点
② 改善の方針及び時期等

### 4. 動物実験計画の審査及び実施

- ア 動物実験計画は、動物実験実施規程に基づき適切に審査、実施されている。  
 イ 動物実験計画の審査、実施に関して問題がある。

① 問題点
・ 計画の承認前に動物実験を実施する課題があった。
② 改善の方針及び時期等
・ 再発防止のため、関係者への研究倫理教育の実施と職場内におけるチェック体制の整備及び契約事務の適正化に関して職員への周知を行った。

## 5. 動物実験実施報告書

- ア 動物実験実施報告書の実施結果は適切に理事長に報告されている。  
 イ 動物実験実施報告書の実施結果の報告に関して問題がある。

### ① 問題点

- ・当初計画に比べ実験の供試頭羽数が増加して報告している課題があった。変更計画を提出しないまま実験を続けたことは問題である。

### ② 改善の方針及び時期等

- ・実験途中で供試頭羽数が増加する場合は計画変更の手続きをとることを周知する。併せて主担当者だけでなく副担当者においても計画内容をチェックし適切に進行管理を行うよう周知し、記載漏れや手続きの未実施を防止する。

## 6. 実験動物状況報告書

- ア 実験動物状況報告書は理事長に報告されている。  
 イ 実験動物状況報告書に関して問題がある。

### ① 問題点

### ② 改善の方針及び時期等

## 7. 実験動物の健康及び安全の保持

- ア 飼養保管や輸送において、動物実験実施規程に基づき実験動物の健康・安全保持の措置が適切に行われている。  
 イ 飼養保管や輸送において、実験動物の健康・安全保持に関して問題がある。

### ① 問題点

### ② 改善の方針及び時期等

## 8. 生活環境の保全

- ア 動物実験実施規程に基づき施設等及びその周辺の生活環境の保全に努めている。  
 イ 施設等及びその周辺の生活環境の保全に関し問題がある。

### ① 問題点

### ② 改善の方針及び時期等

## 9. 人への危害・環境の保全上の問題の防止

- ア 動物実験実施規程に基づき人への危害・環境の保全上の問題が適切に防止されている。  
 イ 人への危害・環境の保全上の問題の防止に関し問題がある。

### ① 問題点

### ② 改善の方針及び時期等

10. 地震・火事等の緊急時の対応

- ア 緊急事態に備えた措置に関する計画が定められ、緊急時の対応に問題はない。  
 イ 緊急事態に対する備え、対応に関して問題がある。

① 問題点
② 改善の方針及び時期等

11. 教育訓練

- ア 動物実験実施規程に基づいて、教育訓練が実施されている。  
 イ 教育訓練は実施されているが、問題がある。

① 問題点
② 改善の方針及び時期等

- ウ 必要な教育訓練が実施されていない。

○実施の方針及び予定等
-------------

- エ 当該年度には、教育訓練が必要な者はいなかったため、実施せず。

- 備考 1) 該当する評価結果の□に✓印を記入すること。  
2) 評価結果が「イ」又は「ウ」に該当した場合は、当該評価結果の下欄に表示している事項について、その内容を記載すること。

## 家畜改良センターにおける動物実験委員会の構成と実施状況

### 1. 動物実験委員会の構成

役割	委員数
① 動物実験等に関して優れた識見を有する者	4名
② 実験動物に関して優れた識見を有する者	1名
③ その他学識経験を有する者	2名

### 2. 動物実験委員会の実施状況

令和元年度(平成31年度)の動物実験委員会は以下のとおり開催し、動物実験計画書の承認、動物実験実施報告書の確認等を行った。

開催時期	内容	回数
平成31年4月 ～令和2年1月	令和元年度動物実験計画書の審査	22回
令和元年7月	平成30年度動物実験実施報告書の確認他	1回
令和2年1月～ 令和2年3月	令和2年度動物実験計画書の審査	7回
計		30回

## 家畜改良センターにおける動物実験に関する教育訓練の実施状況

### eラーニングを利用した教育訓練

動物実験に関するeラーニングカリキュラム(「動物実験の基礎知識」、「動物実験の実施にあたり配慮すべきこと」)を活用し教育訓練を実施した。

動物実験関係者のうち新規採用者等初めて動物実験に携わる者はeラーニングの受講を必須とし、その他の動物実験関係者は3年に1回eラーニングを受講することとしている(受講者数:令和元年度51名、令和2年度55名)。

なお、eラーニングでは、単元毎にテストを実施。